

2010年度 名古屋大学 前期 日本史

問題

問1 (4行)

藤原四子の死後、橘諸兄が実権を握り、玄昉や吉備真備が登用された。反発した藤原広嗣は玄昉・真備の排除を狙い反乱を起こした。これに動揺した聖武天皇は都を転々としながら、仏教の鎮護国家思想に基づいて政治や社会の不安を鎮めるため、国分寺建立の詔を出し、ついで大仏造立の詔を発した。

問2 (2行)

光明皇太后の信任で台頭した藤原仲麻呂は、橘奈良麻呂らの反乱計画を未然に防いで実権を握る一方、養老律令を施行し、儒教的政策を進めた。

問3 (3行)

平清盛は貴族社会の内紛から起こった保元・平治の乱で勝利を収めたことを基礎に、後白河法皇の信任を得て太政大臣に就任し、朝廷で権勢をふるった。そのもとで平家の朝廷における地位が上昇していった。

問4 (2行)

平家は瀬戸内海航路の安全をはかるとともに、摂津大輪田泊を修築して宋商人を畿内まで招来し、日宋貿易を盛んに行い、その利益を経済基盤とした。

問題

問1 あ 宗祇 い 足利学校 う 小林一茶 え 正風 お 松尾芭蕉

問2 (3行)

農民の階層分化が進んだ上に天明の大飢饉が広がったため、江戸への貧農流入が増加し、農村が荒廃した。そのため、老中松平定信は旧里帰農令を出して帰村を奨励するとともに、村からの出稼ぎを制限した。

問3 (3行)

戦国の動乱の中で台頭した戦国大名や国人は、独自の権力を形成して地域支配を進めた。そして京都や鎌倉から公家や桂庵玄樹などの五山禅僧を招いて保護し、儒教や古典などの中央の文化を積極的に受容した。

問4 (3行)

室町時代には連歌が集団で楽しむ文芸として身分を超えて広まり、江戸時代には連歌から俳諧が独立し、豪農らに受け入れられて全国で流行した。明治・大正期には俳諧から独立して俳句が成立した。

問題

問1 あ 尾崎行雄 い 吉田茂 う 桂太郎 え 東条英機

問2 (3行)

最初、選挙資格は満25歳以上男子で直接国税15円以上納入者であった。その後、納税資格は第2次山県内閣で10円以上、原内閣で3円以上と引き下げられ、護憲三派内閣で撤廃された。そして幣原内閣では満20歳以上の男女に選挙資格が与えられた。

問3 (2行)

この演説では玉座や詔勅という天皇を象徴する言葉を用いて、第3次桂内閣による天皇の政治利用を批判している。

問4 (2行)

近衛文麿が大政翼賛会を結成した際、すべての政党は解散しており、さらに翼賛選挙により政府推薦者で衆議院の絶対多数が占められ、戦争翼賛体制が強化された。

問5 (3行)

民撰議院設立建白書が政府に提出され、民権派の全国組織として愛国社が結成され、自由民権運動が盛り上がった。それに対して政府は大阪会議で妥協をはかり、立憲政治への漸進的な移行を約した。

問6 (2行)

55年体制。自由民主党は憲法改正・再軍備とアメリカ依存の安全保障を唱え、日本社会党は憲法擁護・再軍備反対と非武装中立を唱えた。

問7 (2行)

池田勇人。所得倍増。日本は貿易や為替・資本の自由化を実施し、先進国が国際経済について協議する機関であるOECDに加盟した。

問8 (2行)

東京都をはじめ、様々な自治体で革新首長が誕生した。これらの自治体は公害規制条例の制定や老人医療無料化などの福祉政策を進めた。